

2023年3月期第2四半期（中間期） 決算ハイライト

2022年11月11日

未来を、ひろげる。

1. 2022年度中間決算の概要

HD連結

- 親会社株主に帰属する中間純利益は、本業の業績が堅調に推移する中、保有株式の株価下落等に伴う評価損拡大により減損損失を計上したことを主因として、前年同期比11億円減益の100億円

連結業績サマリー

2022年度中間決算のポイント

(億円)

	2022年度 中間期	前年 同期比	(増減率)	公表比
連結粗利益	485	8	(1.6%)	
(除く国債等債券関係損益)	① 505	21		
資金利益	347	9		
役務取引等利益	99	△ 6		
特定取引・その他業務利益	38	4		
(うち国債等債券関係損益)	② △ 19	△ 13		
営業経費 (△)	292	△ 4		
与信費用 (△)	③ 5	△ 45		
株式等関係損益	④ △ 41	△ 75		
その他	1	△ 1		
経常利益	147	△ 20 (△11.6%)		△ 38
特別損益	△ 1	5		
法人税等合計 (△)	44	△ 4		
非支配株主に帰属する 中間純利益 (△)	0	0		
親会社株主に帰属する 中間純利益	⑤ 100	△ 11 (△9.5%)		△ 25
(参考) 営業経費率	58.0%	△3.3%		

※ 営業経費率 = 営業経費 ÷ (連結粗利益 - 国債等債券関係損益)

① 連結粗利益 (除く国債等債券関係損益)

- ・ 経営目標として掲げて重点的に取り組んでいる広島銀行のコンサルティング業務のうち、特に注力している法人ソリューション収益が大幅に増加 (+21億円) するなど、本業の業績は堅調に推移

② 国債等債券関係損益

- ・ 米国金利の利上げペースが加速する中、低利回りの米国債等売却するなど、利回り改善を企図した外債の入替売買に伴う売却損31億円を計上

③ 与信費用

- ・ 前年度に貸倒引当金の算定方法の見直し (予想損失率の算定期間の長期化、グループ引当) や一部のお取引先について引当の積み増しを行うなど予防的な引当として116億円を計上したことに加え、足元においても大口の倒産などは発生しておらず、与信コストは5億円の低水準に止まる

④ 株式等関係損益

- ・ 保有株式の株価下落等に伴う評価損拡大により、減損損失50億円を計上 (税引後利益への影響△34億円)

(参考) 上場株式の減損基準

期末時点において、株価が取得価格に比べて著しく下落した場合

※年度末決算における減損の計上要否は、3月末の株価により判定の上確定

⑤ 親会社株主に帰属する中間純利益

- ・ 保有株式にかかる減損損失の計上により、前年同期比11億円の減益となるものの、中間純利益は100億円を確保

2. 主なグループ会社の実績

グループ各社

(億円)

銀行

	2022年度 中間期	前年 同期比	(増減率)
業務粗利益	442	16	(3.7%)
(うちコア業務粗利益)	462	29	(6.7%)
資金利益	359	9	
役務取引等利益	69	△ 3	
特定取引利益	8	5	
その他業務利益	5	5	
(うち国債等債券関係損益)	△ 19	△ 13	
経費 (除く臨時処理分) (△)	263	△ 10	
実質業務純益	179	27	(17.2%)
(コア業務純益)	198	39	(24.7%)
(コア業務純益 (除く投信解約損益))	198	39	(24.7%)
与信費用 (△)	4	△ 45	
株式等関係損益	△ 41	△ 74	
その他臨時損益	7	△ 5	
経常利益	140	△ 9	(△5.9%)
特別損益	△ 1	5	
法人税等合計 (△)	37	△ 1	
中間純利益	101	△ 3	(△3.5%)

- 広島銀行の本業の業績は堅調に推移しており、コア業務純益は前年同期比39億円の増益となったものの、保有株式について減損損失を計上したことを主因として、中間純利益は前年同期比3億円減益の101億円

証券

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	23.9	△ 7.1
経常利益	3.8	△ 6.3
中間純利益	2.3	△ 4.3

ヒューマンリソース

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	0.7	0.6
経常利益	△ 0.3	0.0
中間純利益	△ 0.2	0.0

キャピタルパートナーズ

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	0.6	0.1
経常利益	0.1	0.1
中間純利益	0.1	0.1

エリアデザイン

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	0.6	0.1
経常利益	△ 0.4	△ 0.1
中間純利益	△ 0.3	△ 0.1

しまなみ債権回収

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	3.7	△ 2.4
経常利益	1.5	△ 2.4
中間純利益	1.0	△ 1.7

リース

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	11.5	0.3
経常利益	6.0	0.1
中間純利益	3.9	0.0

ITソリューションズ

	2022年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	4.5	0.2
経常利益	0.5	△ 0.5
中間純利益	0.3	△ 0.3

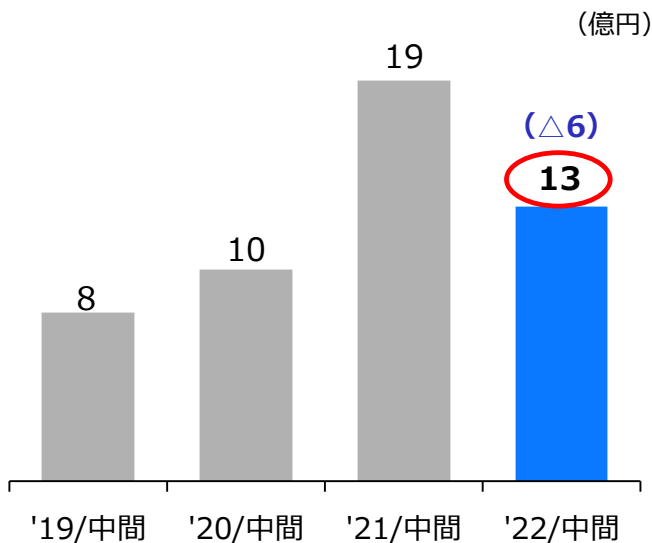
3. グループ連携の強化

グループ各社

- グループ会社中間純利益は、ひろぎん証券やしまなみ債権回収の減益を主因とし、前年同期比6億円減益の13億円
- グループ会社の相互連携は順調に進んでおり、グループのあらゆる機能とアライアンスを活用した非金融分野を含めたソリューションの提供を通じ、顧客軸は着実に拡大

グループ会社中間純利益

グループ会社中間純利益 = 銀行を除く連結子会社の中間純利益に
出資比率を乗じた額の合計



(参考) (億円)

HD単体中間純利益	16
(+) 銀行	101
(+) 銀行以外のグループ会社	13
(△) 子会社からの配当金の相殺等	30
HD連結中間純利益	100

グループ会社の主な取組み

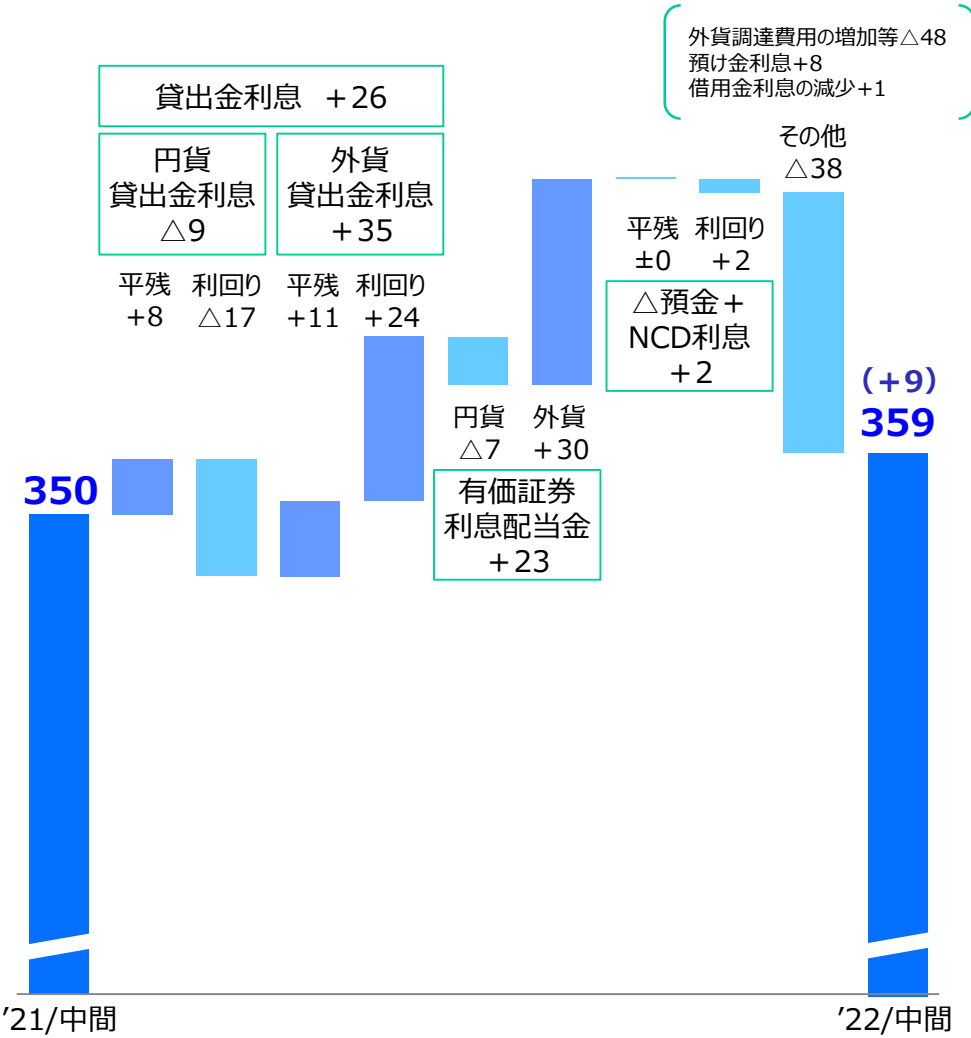
金融・非金融ニーズ	ソリューションの主体	実績 * '22/中間・'22/9末	(参考) 持株会社体制移行 ('20/10)後の累計
資産運用	証券	金融商品仲介 口座数 27,805口座 ('22/3末比 + 1,684)	'20/9末比 + 6,762口座
債権買取	しまなみ 債権回収	債権買取 取引先数 1,420先 ('22/3末比△206)	'20/9末比 + 155先
人材確保・ 人事制度構築	ヒューマンリソース (2021年4月新規設立)	顧問契約社数 49社 ('22/3末比 + 18)	'21/4月以降 + 49社
設備投資・ リース活用	リース	取引先数 6,362先 ('22/3末比 + 38)	'20/9末比 + 204先
資本増強 (事業承継・事業再生)	キャピタル パートナーズ	出資残高 (ファンド・プリンシパル出資合計) 36億円 ('22/3末比 + 7)	'20/9末比 + 35億円
ICT・業務効率化	ITソリューションズ (2021年1月子会社化)	案件成約件数 79件 ('21/中間比 + 31)	'21/1月以降 192件
地域課題解決	エリアデザイン (2021年4月新規設立)	期中受注案件 12件 ('21/中間比±0)	'21/4月以降 31件

4. 経営成績の推移（資金利益、非資金利益）

銀行単体

資金利益の増減要因

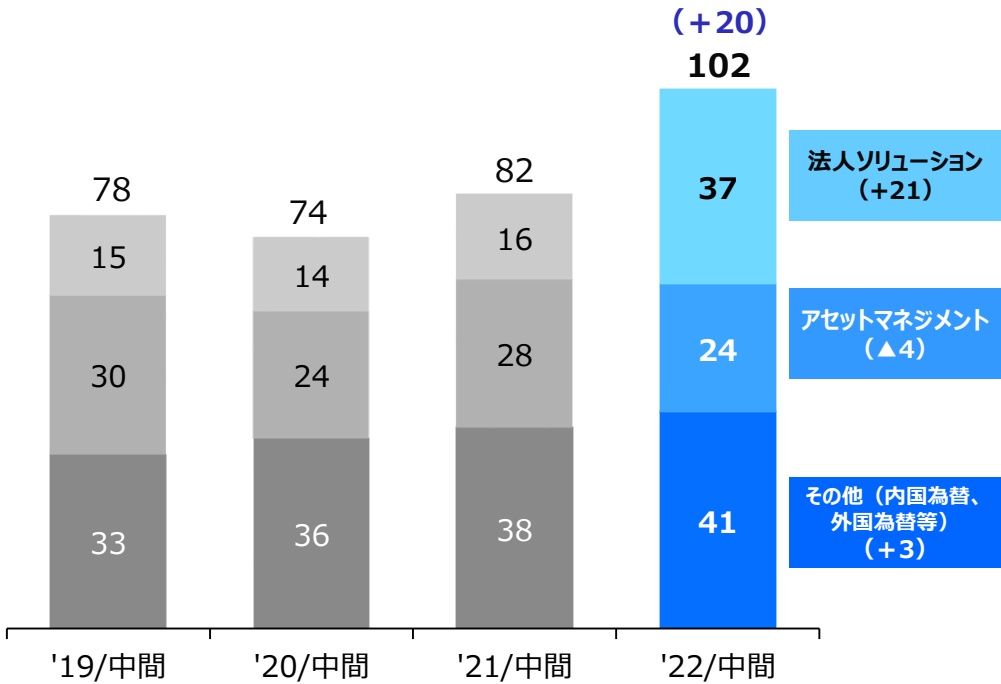
(億円)



非資金利益

(億円)

非資金利益 = 役務取引等利益 + 特定取引利益 + その他業務利益（除く国債等債券関係損益）



(参考) 法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益

(億円)

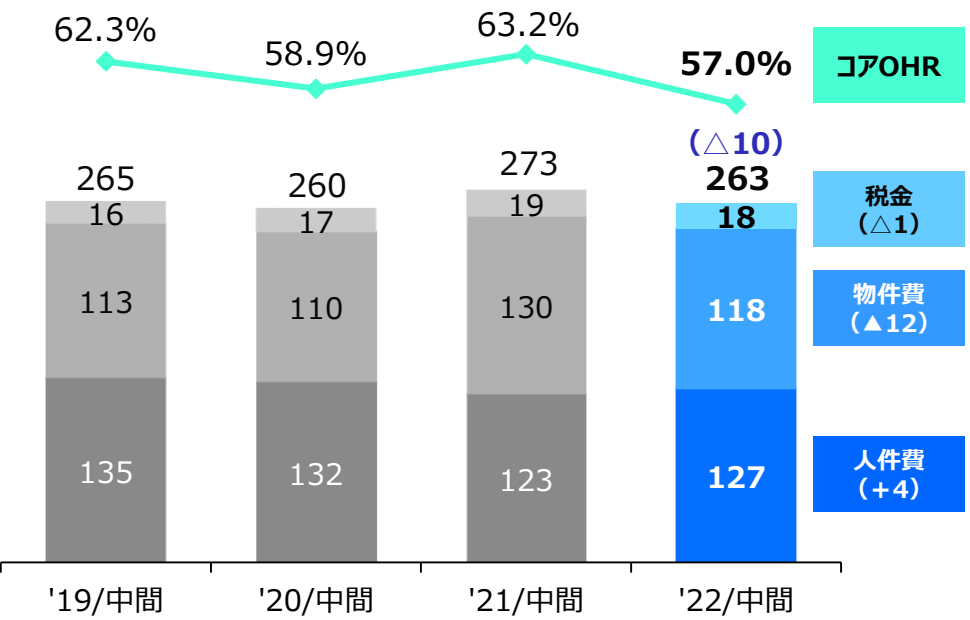
	'19/中間	'20/中間	'21/中間	'22/中間	前年同期比
法人ソリューション	15	14	16	37	21
アセットマネジメント	30	24	28	24	△ 4
うち信託	2	2	3	3	0
エクイティビジネス	13	-	6	0	△ 6
合計	58	38	50	61	11

4. 経営成績の推移（経費、コア業務純益／中間純利益）

銀行単体

経費（除く臨時処理分）・コアOHR

コアOHR = $\frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}}$ (億円)

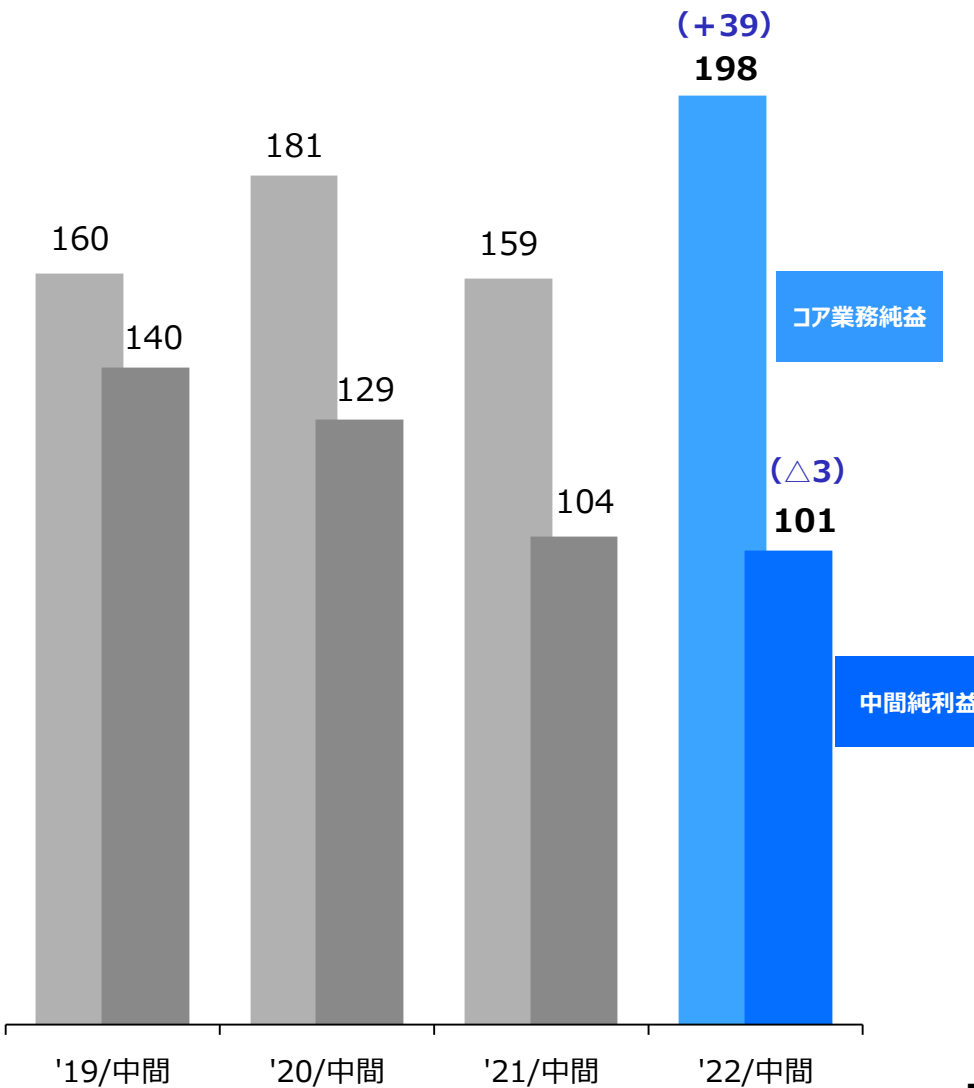


(参考) 経費の主な増減要因 (億円)

	前年同期比	主な要因
人件費	+4	・退職給付費用+5
物件費	▲12	・本社ビル関連▲6（備品等） ・預金保険料▲6
税金	▲1	・消費税▲1 （前年に計上した本社ビルに係る消費税の消失）
経費合計	▲10	

コア業務純益／中間純利益

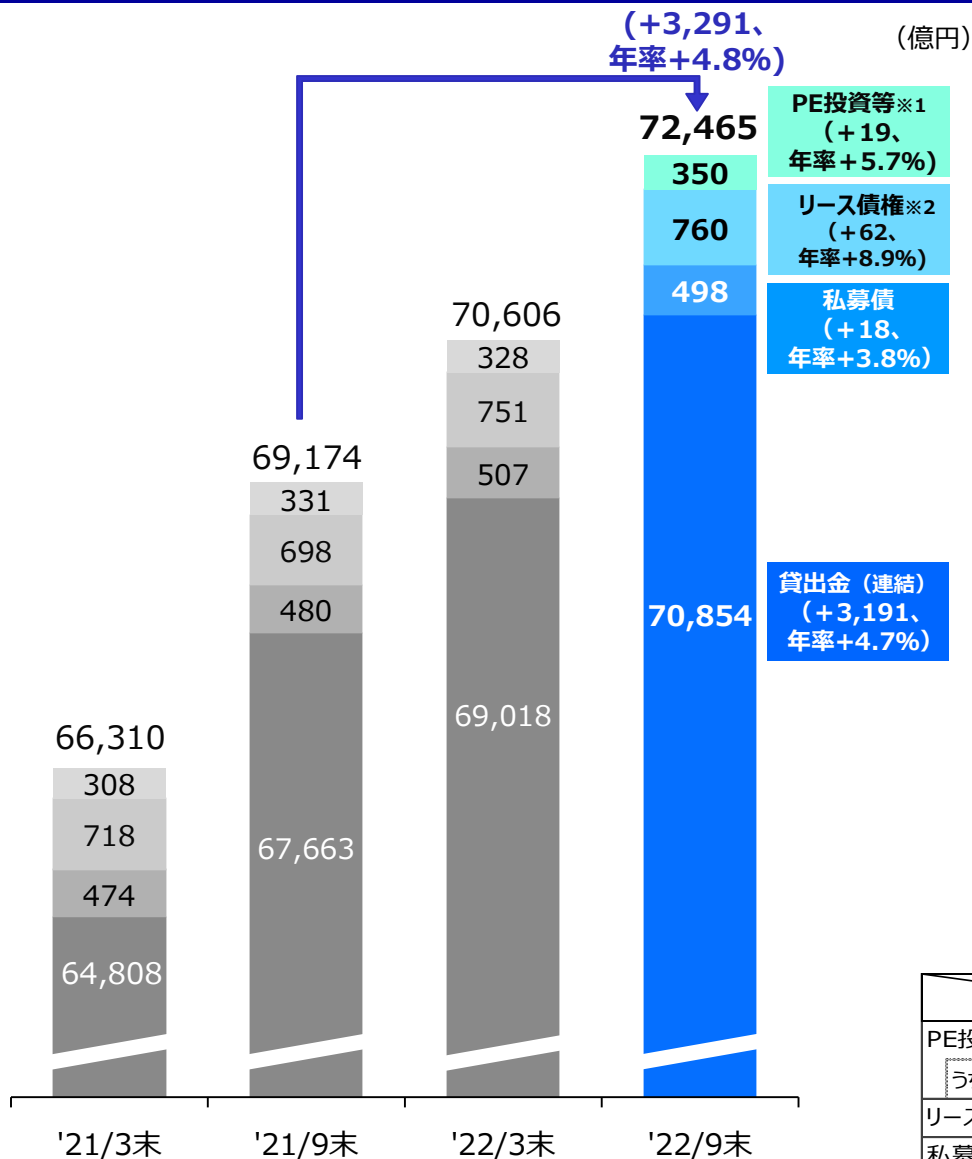
(億円)



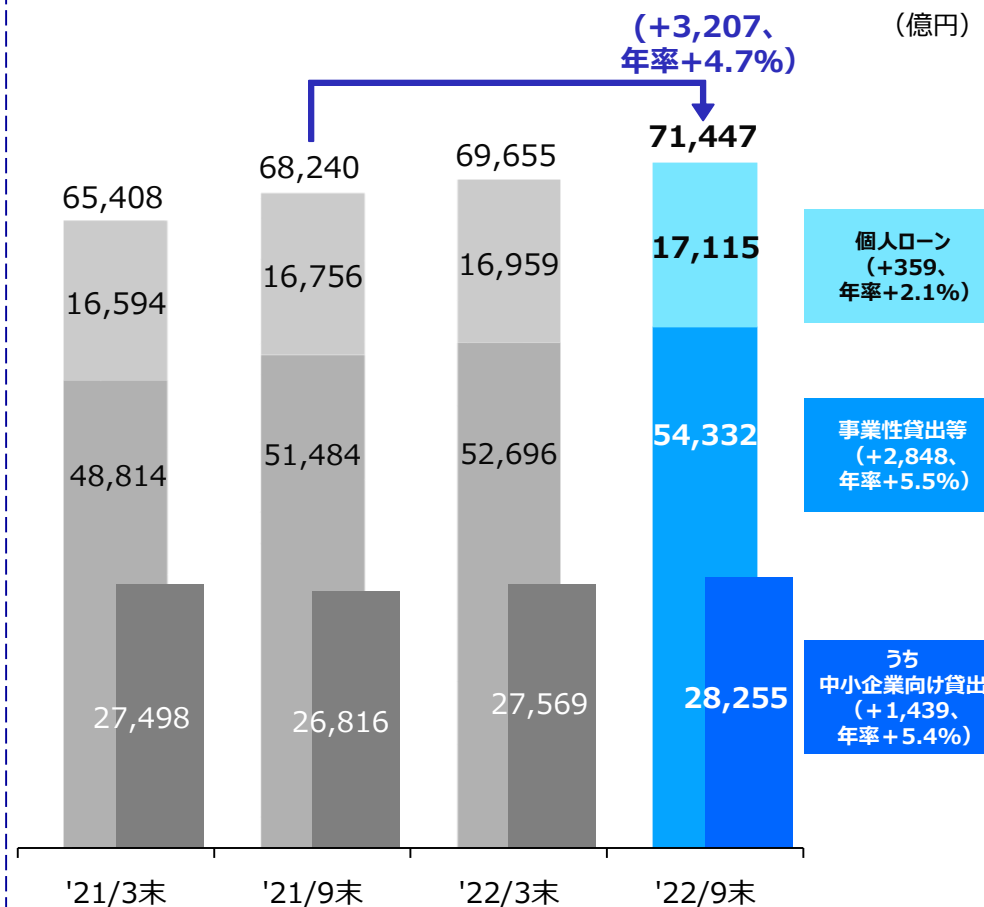
5. グループ総与信（貸出金＋私募債＋リース＋プライベートエクイティ投資等）

HD連結
銀行単体

【HD連結】グループ総与信



【銀行単体】貸出金残高



(億円)

	'21/3末	'21/9末	'22/3末	'22/9末	'21/9末比
PE投資(出資約束額)等 ※1	308	331	328	350	19
うち出資残高	131	147	160	179	32
リース債権 ※2	718	698	751	760	62
私募債	474	480	507	498	18

※1. PE投資等には、私募REIT出資を含んでおります。

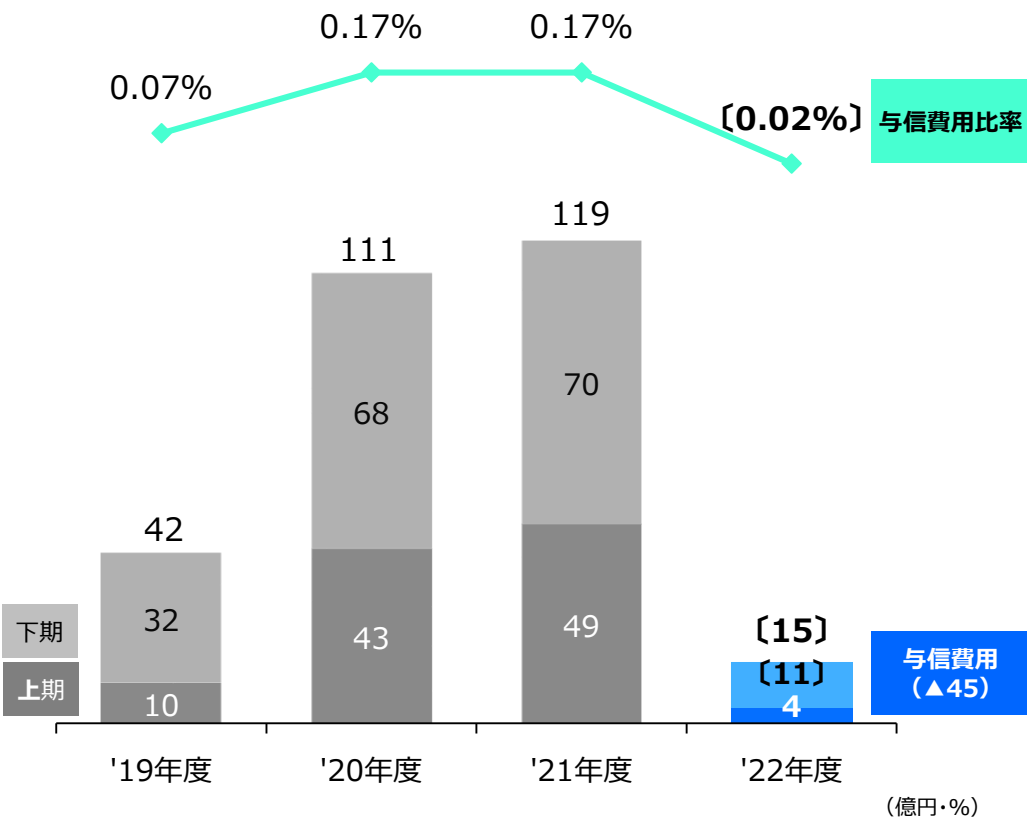
※2. ひろぎんリースのリース債権等を計上しております。

6. 与信費用、不良債権

与信費用・与信費用比率

与信費用比率 = $\frac{\text{与信費用}}{\text{貸出金残高}}$ (億円)

※ '22年度の〔 〕内の数字は計画値

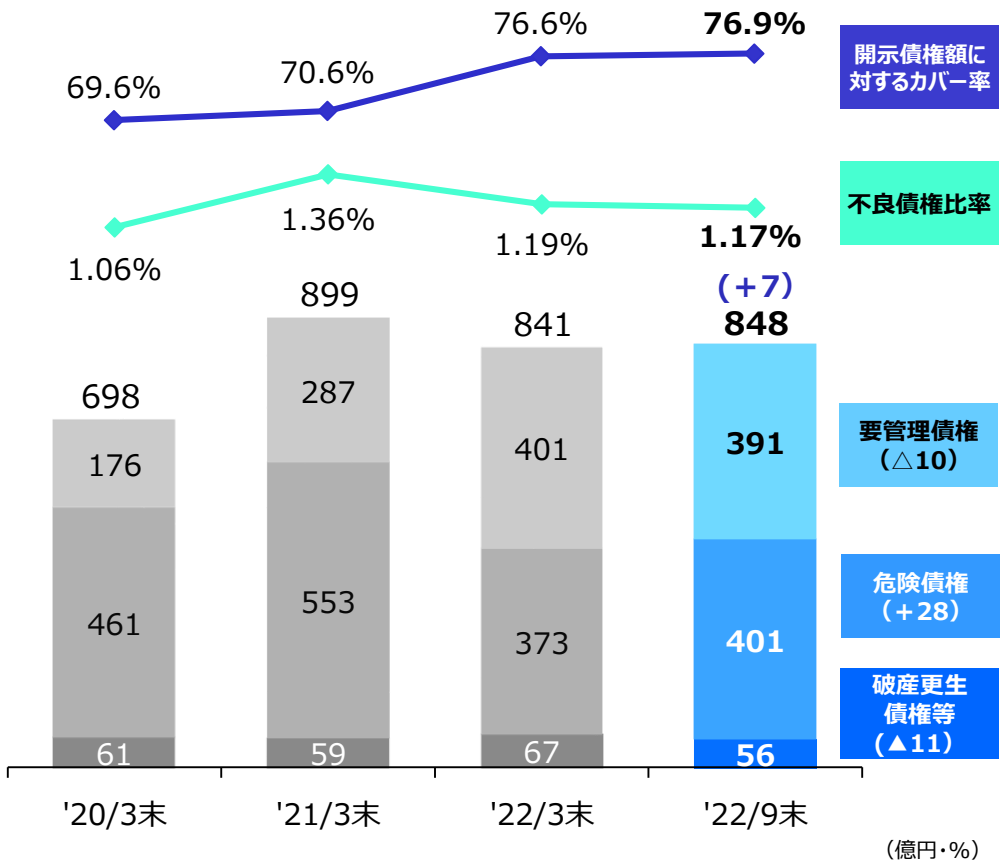


	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度	...	'19年度	'20年度	'21年度	'22年度
与信費用	232	146	119	91	...	42	111	119	[15]
与信費用比率	0.53	0.33	0.27	0.20	...	0.07	0.17	0.17	[0.02]

金融再生法開示債権額・不良債権比率

不良債権比率 = $\frac{\text{金融再生法開示債権額}}{\text{総与信}}$ (億円)

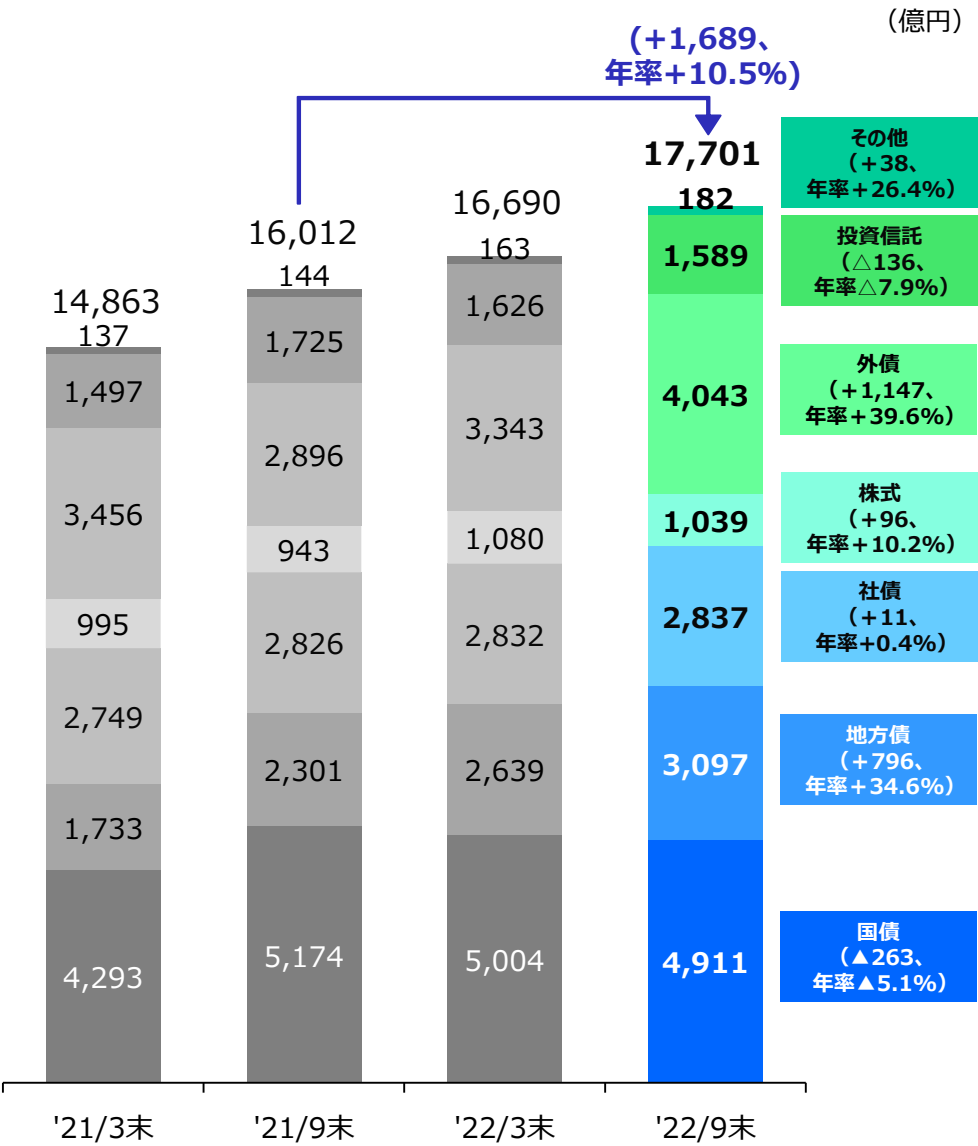
開示債権額に対するカバー率 = $\frac{\text{カバー額 (貸倒引当金 + 担保保証等による保全)}}{\text{金融再生法開示債権額}}$



	'09/3末	'10/3末	'11/3末	'12/3末	...	'20/3末	'21/3末	'22/3末	'22/9末
金融再生法開示債権額	1,284	1,119	1,158	1,052	...	698	899	841	848
不良債権比率	2.82	2.50	2.60	2.31	...	1.06	1.36	1.19	1.17

(注) 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

有価証券残高



有価証券評価損益

(億円)

	'21/3末	'21/9末	'22/3末	'22/9末	'22/3末比
債券	1	21	△ 112	△ 204	△ 92
国債	△ 18	7	△ 84	△ 148	△ 64
地方債	5	4	△ 17	△ 32	△ 15
社債	14	9	△ 10	△ 24	△ 14
株式	431	385	316	331	15
その他	△ 46	△ 9	△ 189	△ 631	△ 442
うち外債	△ 58	△ 31	△ 160	△ 528	△ 368
うち投資信託	14	23	△ 29	△ 103	△ 74
合計	386	396	15	△ 504	△ 519

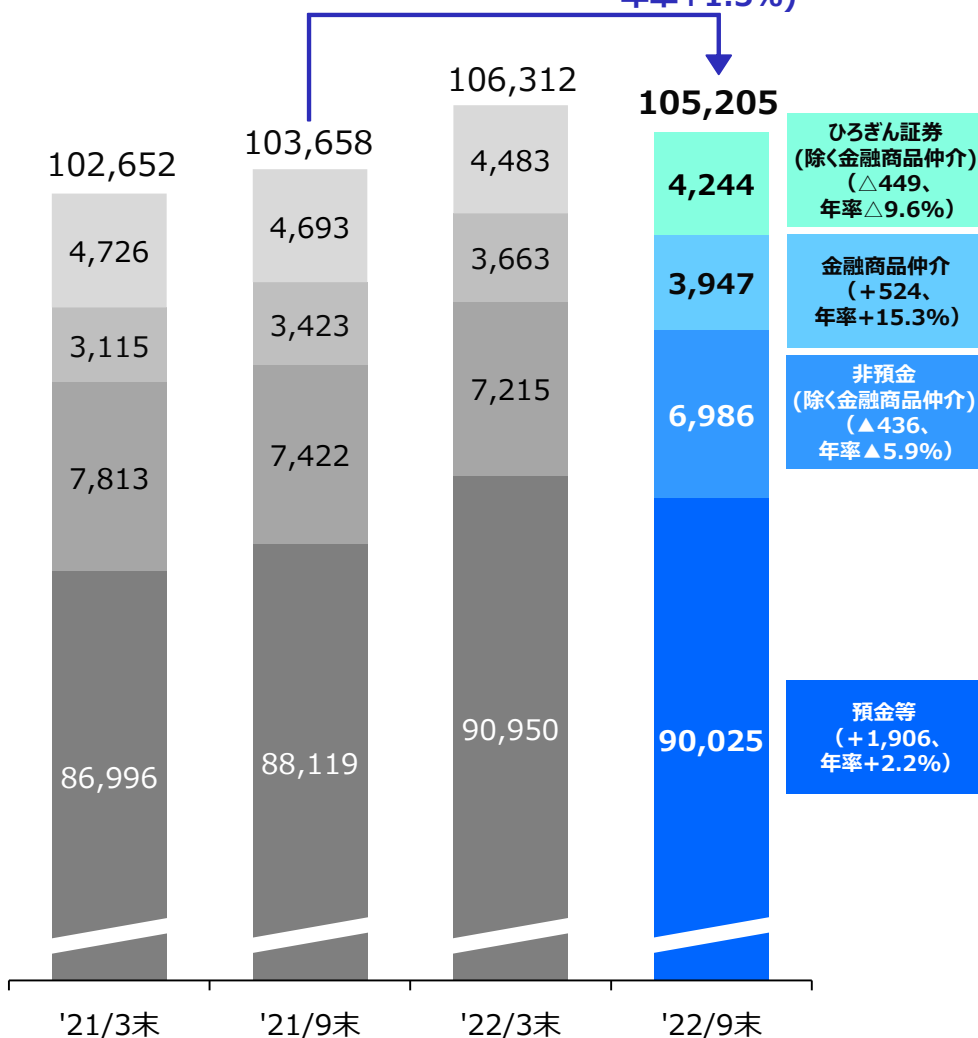
8. 総預り資産(広島銀行+ひろぎん証券)、預金等(預金+譲渡性預金)

HD連結
銀行単体

【HD連結】 総預り資産(広島銀行+ひろぎん証券)

(億円)

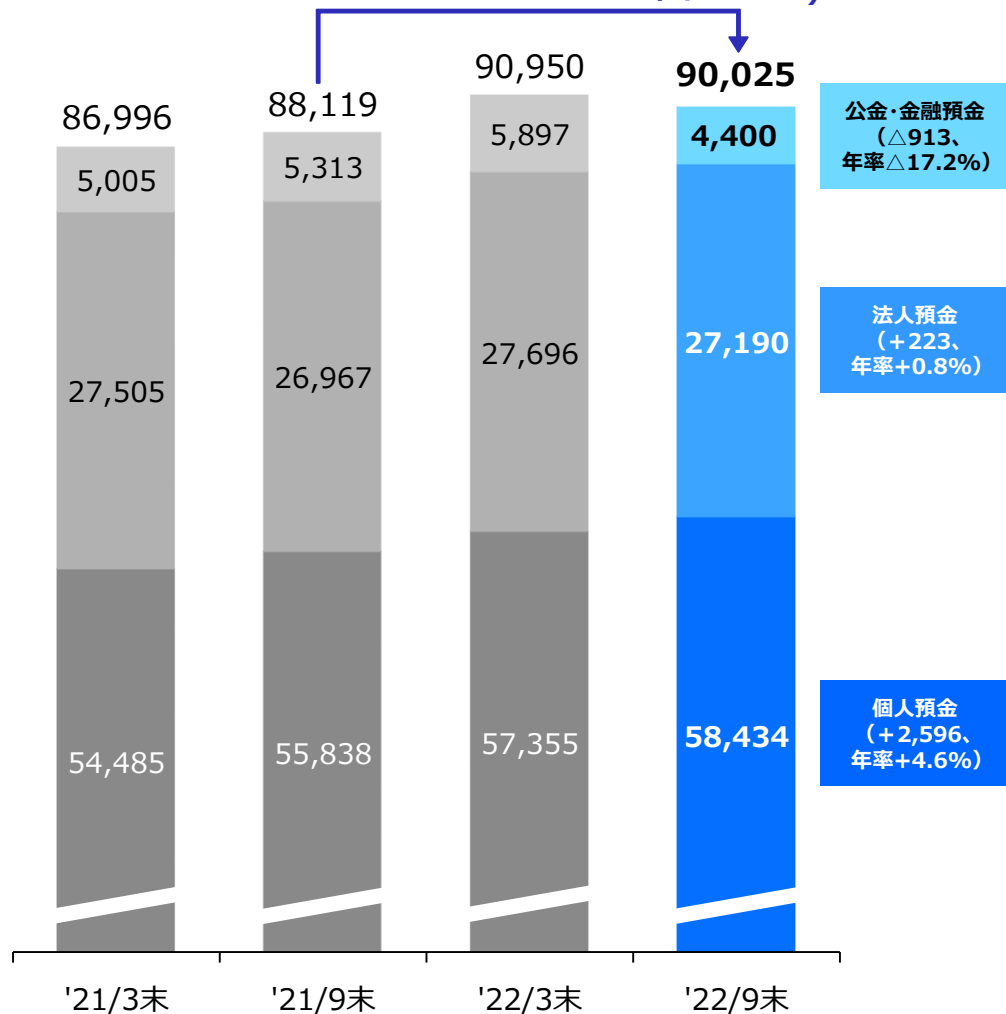
(+1,547、
年率+1.5%)



【銀行単体】 預金等 (預金+譲渡性預金) 残高

(億円)

(+1,906、
年率+2.2%)

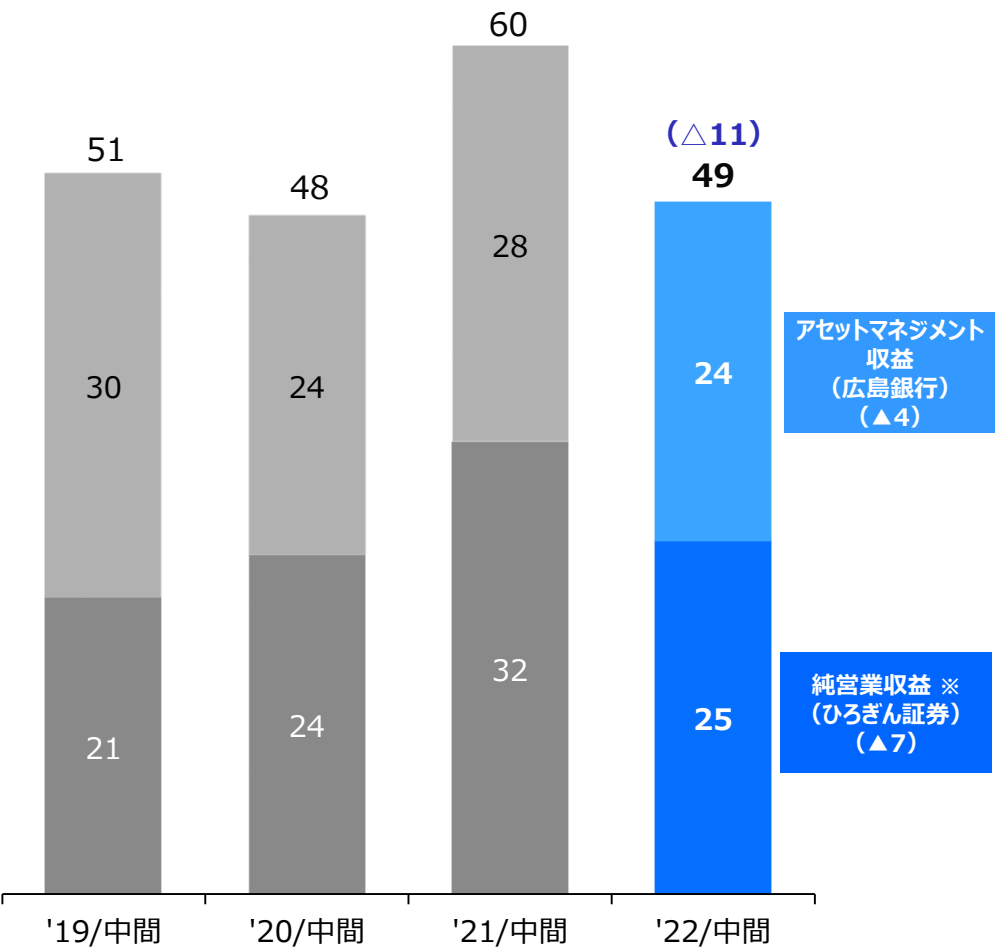


(注) 1. ひろぎん証券の残高は、時価ベースです。
2. 「ひろぎんアプリ」を通じた金融商品仲介(楽天証券・SBI証券)は含んでおりません。

9. アセットマネジメント収益(広島銀行+ひろぎん証券)

【HD連結】 アセットマネジメント収益 (広島銀行+ひろぎん証券)

(億円)



(内訳)

(億円)

	'19/中間	'20/中間	'21/中間	'22/中間	前年 同期比
アセットマネジメント収益 (広島銀行)	30	24	28	24	△ 4
うち保険	13	9	9	9	0
うち投資信託	7	5	6	4	△ 2
うち金融商品仲介 ①	3	4	5	4	△ 1
うち信託	2	2	3	3	0
純営業収益 ※ (ひろぎん証券)	21	24	32	25	△ 7
うち金融商品仲介 ※ ②	11	13	19	14	△ 5
アセットマネジメント収益合計 (広島銀行+ひろぎん証券)	51	48	60	49	△ 11
うち金融商品仲介 ①+②	14	17	24	18	△ 6

※ 銀行に支払う仲介手数料控除後

10. 2022年度の業績予想、配当予想

HD連結

- 当中間期において保有株式の株価下落等に伴う評価損拡大により減損損失を計上したものの、本業の業績が堅調に推移していることに加え、年度末に向け保有株式の株価の回復も想定されるため、**通期の業績予想は、年初公表どおりの250億円から変更しない**
- **配当予想も、年初公表どおりの1株当たり年間配当金27円から変更しない**（中間配当は1株当たり13円50銭実施）
- 仮に株価が回復せず年度決算において減損損失が確定し、結果として、**親会社株主に帰属する当期純利益が240億円以下となった場合においても、1株当たり配当金額は27円での据え置きとする**

2022年度の業績予想

(億円)

	中間期実績	2022年度業績予想	前年比	年初公表比
経常利益	147	370	100	-
親会社株主に帰属する当期純利益	100	250	21	-

(参考) 広島銀行の2022年度の個別業績予想

(億円)

	中間期実績	2022年度業績予想	前年比	年初公表比
資金利益	359	675	△ 32	△ 15
非資金利益	102	190	19	20
コア業務粗利益	462	865	△ 14	5
経費 (△)	263	530	△ 2	△ 5
コア業務純益	198	335	△ 12	10
経常利益	140	335	107	-
当期純利益	101	230	24	-
与信費用 (△)	4	15	△ 104	△ 25

2022年度の配当予想

1株当たり年間配当金は27円

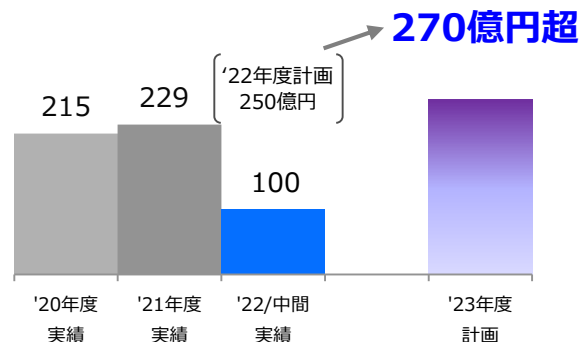
(参考) 配当目安テーブル

親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり配当金額			連結配当性向
	① 安定配当	② 業績連動配当	① + ②	
330億円超～		18円	36円	～34.1%未満
300億円超～330億円以下		15円	33円	31.2%以上～34.4%未満
270億円超～300億円以下		12円	30円	31.2%以上～34.7%未満
240億円超～270億円以下	18円	9円	27円	31.2%以上～35.1%未満
210億円超～240億円以下		6円	24円	31.2%以上～35.7%未満
180億円超～210億円以下		3円	21円	31.2%以上～36.4%未満
～180億円以下		0円	18円	31.2%以上～

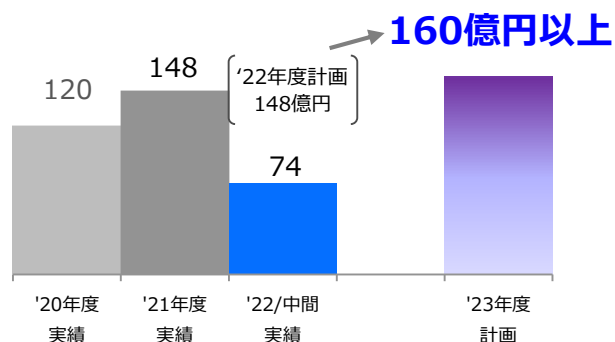
11. 「中期計画2020」における経営目標の進捗状況

HD連結

親会社株主に帰属する当期純利益



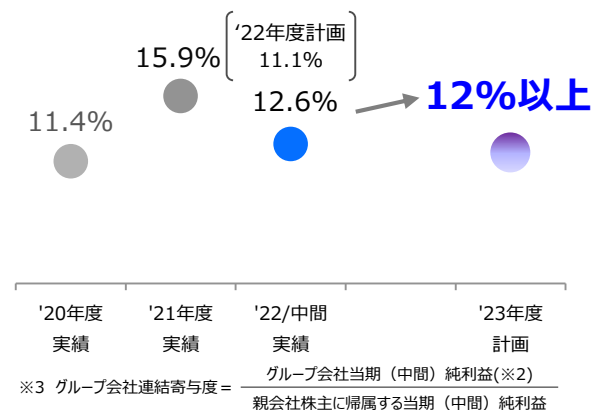
法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益※1およびグループ会社当期純利益※2の合計



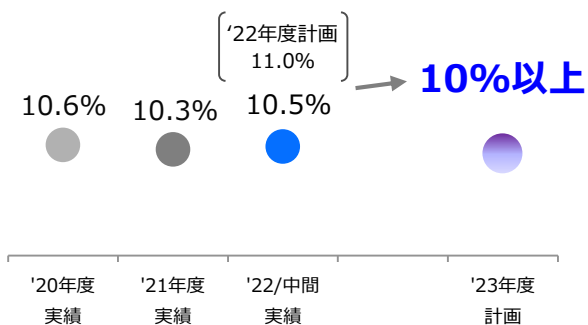
※1 法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益 = 法人ソリューション、アセットマネジメントおよびエクイティビジネスに係る収益の合計

※2 グループ会社当期純利益 = 銀行を除く連結子会社の当期（中間）純利益に出資比率を乗じた額の合計

グループ会社連結寄与度※3



連結自己資本比率



連結ROE

